（様式１）

令和4年度　学力向上指導改善プラン

三田市立学園小学校長　山本　司

学校教育目標	「仲良く 元気に がんばる子」 ～自らを磨き未来をひらく こころ豊かな児童の育成～
推進主体	管理職と研究推進担当、学校改革推進委員を中心に学力向上委員会を設置

			学力に関する前年度の状況・経年の課題等	学力向上に向けての重点的な目標	4月 成果となる目標 （指標となる数値等）	4月 具体的な行動目標 （成果目標達成のための具体的な手立て等）	2～3月 年度末評価 （今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む）	国語	○「話すこと・聞くこと」では、正答率が85.7%で全国平均を7.9ポイント上回っている。 ○「書くこと」では、正答率が61.9%で、全国平均の60.7%を1.2ポイント上回っている。 ◆「読むこと」では正答率が46.0%で全国平均の正答率を1.2ポイント下回っている。 ◆漢字の正答率において、全国平均を下回っており、無回答率も低いものでは38.1%である。二極化の傾向が顕著になっている。	・読解力の基礎を養う。 ・語彙力とともに漢字の基礎的な力を養う。	・全国学力・学習状況調査における国語の言語事項に関する項目の平均正答率を80%以上を目標とする。	○下記の具体的な視点を元に日常生活の中で漢字を適切に使うことができるようにしていく。 ・読み方や字形に注意して繰り返し練習する。 ・必要に応じて漢字を使って文や文章を書く機会を設定する。 ・漢字を調べたり活用したりする学習を多く取り入れる。 ○作文や日記など自分が書いた文章を読み返す際に、言葉の使い方を確認する習慣を身につけさせる。また、文章を書く際に日常的に主語は何かを意識して書くように低学年うちから繰り返し指導する。	○漢字の指導については、小テストで８割に満たない児童について個別に復習・再テストをし、単元ごとに８割以上の正答率を確保する。個人の得意、不得意もあるため、児童にあった支援の方法を今後も検討を続けていく。 ○朝の読書タイムを引き続き毎日行い、読書の習慣の定着を図るとともに、語彙力の向上につなげていく。 ○条件を設定したり文章の組み立てを考えたりしながら自分の考えを分かりやすく文章で表現する学習活動を工夫する。また、討論などの話し合いを場を取り入れながら、意見交流ができる学習活動を設定する。 ○自分の考えを書き、交流する活動を、国語科に限らず様々な場面で取り入れる。	B
		算数数学	○「変化と関係」「データの活用」の領域では、全国平均を上回っている。 ○「変化の関係」では、速さと道のりをもとに、時間を求める式に表すことはできている。正解率は９５%以上であった。 ◆「数と計算」の領域では、正答率が５７．１％（全国６３．１％）で全国平均を５ポイント下回っている。 ◆商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて、除法の式に表すことに課題がある。	○チャレンジタイムにおいて、四則計算の基本的な力をつける。	○四則計算をチャレンジタイムで取り組み、全国平均+3ポイント以上を目指す。 ○算数アンケートで「算数の学習は分かりやすい」と答える児童が80%以上になるよう目指す。	・毎日5分間のチャレンジタイムを継続して行い、計算力の向上を目指す。 ・言葉だけでなく図や表を使って考えを整理したり深めたりできるノート指導に取り組む。 ・授業の理解度が分かるような振り返りを書かせる。 ・算数言葉やつながり言葉の学習を行い、分かりやすく伝えようとすることや共に学び合おうとする態度を育てる。	○【数と計算】領域では、6問中5問が全国平均を上回り、10ポイント以上上回る設問もあることから、計算の技能は概ね身に付いている。朝や昼の学習タイムでの計算練習や授業で意味を考えたり、話し合う活動を取り入れたりしていることが成果となっている。	B
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		◇必要に応じて休み時間や放課後に学力補充をしたり、指導補助員や学習支援員が授業の中で、個別の学習支援を行ったりすることで基礎学力が向上した。小テストや単元テストでは正答率が８割を超えているものもあり、基礎的な学力を身に付けられてきていることは成果といえる。 ◆しかし、単元によっては８割を超えることが難しいものや、学期のまとめテストでは８割を超えられない児童が増える傾向がある。 ◇「数と計算」領域において概ねできている。「チャレンジタイム」で行う、復習プリントやミライシードのドリルパークでの計算練習等の取り組みが成果として表れている。引き続き計算の練習を重ね定着を図っていく。 ◆課題解決において「図をつかって」、自分の考えを整理することに努めてきた。しかし、その図の説明を自分の言葉で伝えることができない児童が多い。また、問題をしっかりと読み、「順序だてて考える」力に課題がある。	○本校の研究教科である算数科を中心に、計算や漢字といった基礎学力の定着を図る。	○算数科の単元テストにおいて、正答率８割以上を目指す。 ○国語科の漢字テストにおいて、正答率８割以上を目指す。	・毎日朝の読書と５分間のチャレンジタイムを継続して行い、語彙力と計算力の向上を目指す。 ・授業の理解度が分かるような振り返りを書かせる。 ・学期末には「まとめのテスト」を実施し、漢字を中心とした言語事項の定着を図る。 ・漢字のまとめテストにおいても８割に満たない児童については、個別に復習、再テストをし、７割以上の正答率を確保する。 ・学習アプリの「ミライシード」のドリルパークを活用し、計算や漢字の定着を図る。	○どの学年も計算力は向上しているため、毎日チャレンジタイムで行っている計算問題は継続して行っていく。◆しかし、文章題や思考力を問う問題は苦手にしている児童が多い。語彙力を向上させるための、読書の仕方や理解度が分かる振り返りの書き方などには、まだ課題が見られる。 ◆漢字の定着率は、児童によって個人差がかなりあるような状況である。個別に復習や再テストを行っているが、７割の正答率に満たない児童もいる。 ○学習アプリ「ミライシード」のドリルパークは、計算や漢字を定着させるために継続して活用していく。ただし、取り組み方や使い方については、今後も検討が必要である。	B
	授業等からうかがえる状況（各教科）		◇各担任は、隙間時間や放課後など時間を見つけ、学力補充の機会をとった。 ◇練習問題の時間を確保し、基礎学力の定着の時間をとった。 ◇朝読書の時間は定着してきた。◆ただし朝読書の事前用意しておらず、その時間になって探し始め、見つめたころには終わってしまう児童も何人かいた。 ◇多くの保護者に見ていただくことができているが、◆状況によっては見てもらえていない児童もいるため、今後も連携をはかっていく。 ◇◆使用してわかりやすく伝えようとしている児童もいるが、その動きは全員には広がっていないため、今後も継続して取り組んでいく。	○漢字と計算力を中心とした基礎基本の力の定着を図る。 ○互いに学びあう学習を進め、意見でつながることができるようにする。	○学期末,漢字のまとめのテストで全学年クラス平均８０点以上を目指す。クラス平均に加え、全児童７０点以上を目指す。 ○見通しをもって、自ら学習に取り組めるようにする。	・授業の中で練習問題の時間を確保し、基礎的な学力の定着を図る。 ・必要に応じて、休み時間や放課後に学力補充をする。 ・朝読書の時間を設定し、集中力や文字を読む力、語彙の獲得を図る。 ・保護者と連携を取りながら、学力向上のために、家で読書の時間を設定していただいたり、宿題を丁寧に見ていただいたりといった取り組みを継続して行う。 ・算数言葉やつながり言葉の学習を行い、分かりやすく伝えようとすることや共に学び合おうとする態度を育てる。	◇各担任は、隙間時間や放課後など時間を見つけ、学力補充の機会をとった。 ◇練習問題の時間を確保し、基礎学力の定着の時間をとった。 ◇朝読書の時間は定着してきた。◆ただし朝読書の本を事前に用意しておらず、その時間になって探し始め、読み始めたころに終わりの時間になってしまう児童が何人かいた。 ◇多くの保護者に見ていただくことができているが、◆状況によっては見てもらえていない児童もいるため、今後も連携をはかっていく。 ◇◆算数言葉やつながり言葉を使用して、わかりやすく伝えようとしている児童もいるが、その動きはまだ全員には広がっていないため、今後も継続して取り組んでいく。	B
学力向上に係る学習習慣・生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況		◆あいさつに関しては、毎年課題になっている項目である。委員会のあいさつ運動や学級指導など取り組みをすすめているが定着しない実態がある。 ◆2年に渡るマスク生活で、口元が見えず話しづらいことが、挨拶にも影響を及ぼしている。相手の表情も読み取りづらい ◆コロナ禍における影響もあり、ゲームや動画の視聴時間の超過などにより就寝時刻や食事など生活習慣に影響が出ている児童がやや増加傾向にある。そのことが家庭学習の定着にも影響している。	○早寝早起き朝食など基本的生活習慣の定着をはかる。	○全児童が朝食を摂って登校する。 ○学年に応じた就寝時刻をほぼ守れる。	・家庭科、学級指導などで食育の学習を行い、望ましい食習慣を身につけさせる。 ・栄養教諭の食指導等を通して食に関する興味関心を持たせる。	◇保護者アンケートでは「朝食を摂って登校している」の項目ではAB評価が96%とほとんどの児童がしっかり朝食を食べて登校している。引き続き食育指導等を充実させ望ましい食習慣を身につけさせたい。 ◆4%にあたる10人程度の児童が何らかの理由で朝食を摂らずに登校することもある。このことは就寝時刻とも深く関係しており、ゲームや動画の視聴時間とも大きく関わっていると思われる。引き続き実態把握と児童保護者への啓発を行う。 ◆学校評価のアンケートより、子どもたちのゲームや動画の視聴時間が思いのほか長時間であること、家庭での約束が守られていないこと等がわかった。このような実態が、児童の生活習慣や家庭学習に影響している。 ◆高学年になるほど、日々の学習道具や宿題等の提出物の忘れ物も目立つ。保護者との連携を密にしながら、より良い生活・学習習慣の確立を図っていく。	B
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		◆学校評価のアンケートより、子どもたちのゲームや動画の視聴時間が思いのほか長時間であること、家庭での約束が守られていないこと等がわかった。このような実態が、児童の生活習慣や家庭学習に影響している。	○保護者と連携しながら、より良い生活・学習習慣の確立を図っていく。	○家庭で、ゲームや動画の視聴時間の約束ができるように保護者に啓発する。 ○全児童に毎日宿題をする習慣を身につけさせる。	・学年に応じた家庭学習の方法、時間を提示し、家庭での学習習慣の確立を図る。 ・どの学年も、保護者と密に連絡を取りながら、宿題等の提出物の忘れ物をなくす。		
校内の研修状況・研修	校内研究の状況		◇学団研究をしっかりともつことができた。学団で出た課題を研究推進委員会でさらに考えることができた。 ◇◆研究会において討議の柱を共有することをしっかりと	○算数科を中心に「主体的に学ぼうとする子どもの育成～ 「わかった」「できた」と実感できる授	○算数科の年間カリキュラム表を基に、単元毎に系統立てた指導を行うことを目指す。 ○見通しをもって自ら考えることができるよう	・表現活動の充実を図る。 ・ICT機器を利用する等した、児童の興味関心を引く授業を目指す。	○導入を意識した授業づくりをしたことから、子どもたちの学びたい意欲が持続され、理解を深めることができた。継続して取り組みたい。 ○これまでの研究でノート指導、板書のスタイル、つなぎ言葉、導入の工夫など積み上げてきたものがある。それらを元に発問など授業スタイルの研究を進め、主体的に学ぶ児童の育成を目指したい。 ◆さらにICT機器の効果的な活用を意識した授業研究も推進する必要性を感じる。	B
	校内研修の状況		◇◆講師を招いた研修を行い、実践の様子から学び方の多様性を学ぶことができた。本校児童の課題から「学びかた」を共有できるようにしたい。 ◆ＩＣＴの活用に関して「いつでも、どこでも、だれで					
家庭・地域等との連携	家庭・地域等の状況		○学校だより を始め、保健だより、学年通信などを利用し、望ましい生活習慣を身につけることの大切さを発信してきた。 ◆ゲームや動画の視聴時間が長時間に及び就寝時刻が遅くなる児童もおり、講演会や学級指導などで保護者にも協力	・家庭における基本的生活習慣の確立	・家庭と連携し、早寝早起きをし朝ご飯を食べる等望ましい生活習慣を身につけることを目指す	・児童保護者アンケートでゲームや動画の視聴時間を把握し、学級指導や個別指導に生かす。 ・基本的な生活習慣の重要性を通信を始めあらゆる機会に保護者に伝える。（可能なら講演会などを行う）	○学校だよりをはじめ、保健だより学年通信を利用し、望ましい生活習慣を身につけることの大切さを発信してきた。 ◆平日でのゲーム動画視聴時間が3時間を超える児童の割合が11%と増加傾向にあり、就寝時刻、朝食などにも影響を及ぼしている。学級指導やPTAの家庭教育学級、情報教育の講演会等を実施し啓発していく必要を感じる。	B
	小・中における教科連携等の状況		○中学校区の小学校と中学校で連携の機会を持ち、課題を共有することができた。今後も継続し、小学校から中学校への移行をよりスムーズにできるようにしたい。	・中学へのスムーズな移行と小中の連携をより深める。	・毎学期、中学校区内の4校で児童生徒の様子の交流、授業参観を行い連携を深める。	・新中学1年生の様子を交流することで、小学校から中学校へのよりスムーズな移行の在り方を検討する。 ・今後の教科担任制に向け、新学習システムの具体的なシステムを考える。（今年度は少人数対応）	○中学校区の小学校と中学校で連携の機会を落ち課題を共有することができた。（管理職、生徒指導、特別支援コーディネーター、6年担任・・・・）	A